

挨拶は魔法の言葉

智辯学園中学校 1 年 宮田 紗希

私が小学生の頃、毎朝登校時に挨拶をしてくれる先生や見守りサポーターの方々の影響で、挨拶って気持ちがいいなと単純に思うことがありました。それから、私は自ら挨拶を心掛けるようになりました。先生や見守りサポーターの方々、近所の人にも挨拶をするようになりました。はじめは、恥ずかしいが勝っていたけど、挨拶をしていくうちに、挨拶って元気をもらえる気がして、特に朝の挨拶は気持ちよく一日がスタート出来る、そんな効果があるような気がします。

そんなある日、いつものように、

「こんにちは。」

と挨拶をしたのにそのまま何もなかったかのように無視される時がありました。一瞬、時間が止まったような感覚で初めての体験でした。私は今すぐこの場所から逃げたいという恥ずかしさと、何で無視するんだろうという悲しい気持ちでいっぱいになりました。その事を家で話してみると、

「挨拶が聞こえなかったんじゃないの？」

と言われ、また次の日、今度はもう少し大きな声で挨拶を試みたけど、挨拶が返ってきませんでした。その時私は、「何で挨拶をしたくないのかな。私のことが嫌いなのかな。」と思いました。挨拶をすればお互い嬉しくなって良いものなんだと思っていたからです。インターネットで検索を掛けてみました。挨拶をしない、返さない理由はどうやら、人見知りだったり、無視されるのが怖い、プライドが人より高かったり、無関心などが書かれていました。それを見て私は、その人はその人なりに、いろんな事情があることを知らされました。ただ単に人を嫌っているという問題ではなかったことを知り、なんだか申し訳ないなと私は思いました。同時に、人を少ない手がかりだけで決めつけてはならないということも学びました。

私はこの体験から、いろいろな方がいるということを知った上で、それでも挨拶からはじまる一日を気持ちよく過ごしたいと強く思いました。私は諦めず毎日人に出会ったらまず第一声に挨拶をしました。それをする事により、挨拶を返してくれる人が増えるんじゃないかと、そして挨拶からまた次の話題に広がっていくんじゃないかと考えました。無視された時は、やっぱり悲しいけど、いつか挨拶を返してくれることを信じて諦めず、いろいろな人に挨拶をしていきました。

その挨拶をしていくうちにだんだん私のまわりに挨拶を返してくれる人が増えていきました。そして前まで無視していた人も、挨拶をしてくれるようになりました。まるで私に心をひらいてくれたかのようでした。一つ一つの積み重ねがこうして影響を与えていくんだと実感出来た出来事でした。

挨拶があるからこそ、笑顔がたくさん見られて心地の良い生活になります。挨拶はとても大切なことです。日々の積み重ねが結果につながることも知れました。やっぱり心を閉ざさなくて良かったな、諦めなくて良かったな、挨拶をして正解だったなと嬉しい気持ちになりました。挨拶があるから、人と人とのつながりが良くなっていく気がします。日本だけでなく、世界の人々にも、まずは挨拶から、そこからつながり、交わり、コミュニケーション社会を築きあげていく、挨拶はその第一歩です。今の自分に出来ること、スマホ時代、SNSの時代ですが、みんな下をむいてばかりいないで、顔をあげ、相手の顔を見て挨拶をしていきたいです。相手の変化も表情から読み取れるようになるかもしれません。挨拶は、人とのつながりを強くする、こんな時代だからこそ、みなさんも挨拶をして毎日を気持ちよく過ごしてみませんか？